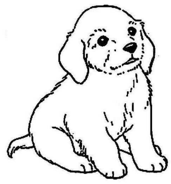
〜〜

対面リーディング通信



2016年
8 月

2016年８月1日 発行　　第１７１号（隔月刊）

〜〜〜

警報発令時の休館について

当館では台風などにより気象警報が出た場合、以下の通り館内サービスを休止いたします。

大阪府下（一部でも）に気象警報が発令された場合、館内サービスは次の通り休止する。

①午前７時に警報が出ている場合＝午後１時まで休止

②午前１０時に警報が出ている場合＝午後１時以降休止

③午前１０時以降に警報が出た場合はその時点で休止

④その他、館長が危険と判断した場合は休館することがある

職員は可能な限り出勤し、連絡等の対応をいたしますが、交通機関への影響などにより充分な対応ができなくなる事態も考えられます。
台風などの際は最新の気象情報、交通情報等にご注意ください。

今月号の主な内容

警報発令時の休館について			1
対面リーディングの難所物語	最近の『群像』の書評欄、随分と充実しています！	二村　晃	2
私のふるさと	私の住む町・住吉	内藤　流津	3
誌上勉強会	言葉を考える２　アクセント	木村　謹治	4
寄り道・回り道	蕎麦　若木	木村　謹治	8
人と人生	エム ナマエ	福田　直樹	9
音訳ボランティア養成講習会のおしらせ　ほか			１１

８１.最近の『群像』の書評欄、随分と充実しています！

二村（ふたむら）　晃（あきら）

ここ１年半ばかり、漫画の音訳作品を追いかけて来ました。漫画の作品も随分とレベルアップされて来たようですね。多くの作品が、全国各地の音訳グループで制作されている様子に、すっかり満足させて頂いています。

さて、今号では『群像』６月号の書評欄より、注釈をこなして完璧に読みこなされた幾つかの作品をご紹介してみましょう。

「聖者の悲劇」　ワカマツエイスケ‥ワカモノの若とジュモクの松。アイヅワカマツの若松。エイヨウの栄と、クルマヘンノ輔、寄り添って助けるの意のスケ・輔。
カガオトヒコ著‥カガはクワえるとガショウの賀。カガ百万石の加賀。オトヒコは、コウオツの乙と、ヒコネの彦。『殉教者』講談社刊。

固有名詞の解説は手慣れたものです。注釈を滑らかに読みこなしていらっしゃる部分を拾ってご披露しましょう。
「この小説の主人公［ペトロキベ‥ギフケンの岐と、ブブンの部で、［ペトロ岐部］
「数年前に［キテン］した」‥キテンは天国に召されること・帰天
「彼らの［キョウガイ］‥キョウガイは、境遇と立場。境遇と生涯で・境涯
「フカシなテンへのカイテイ」‥見ることのできない天国への階段。
「司祭に［ジョカイ］される」‥ジョクンの叙とカイキュウの階・位を授けられること。
「作家はそれを［ソウゾウ］‥「イマジネーション」とすかさず英語をつけたのは見事！
「本書はペトロ岐部の生涯を描き出しているだけでなく、その性格と人生を深みで支えているイエスを今に顕現（けんげん）させようとする試みでもある」と結んでいます。「片鱗であってもイエスを体現することこそ、聖なる者たちの願いであることを作家の眼は見逃がさない」とまで言い切っています。ぜひ読んで欲しい１冊です。

「その荷は私たちに託された」　キムラサエコ‥ウエキの木と、マチムラの村、サエコは、メイロウの朗とコドモの子・木村朗子　ツシマユウコ著‥オオツの津とシマネケンの島、ニンベンにミギの佑とコドモの子・津島佑子著『半減期を祝って』講談社刊

この本は、「30年後の社会・作家の想像力」と題する特集に寄せられた総勢12名の作家による競演集です。原発事故を起こした福島を抱えて、この先の日本はどうなるのか？　作家たちに共有された意識は暗く、中でも巻頭を飾っているのが『半減期を祝って』で、セシウム137の半減期は30年なので、とりあえず30年目に祝賀の行事が行なわれます。
［シュウワイ］を次々にさらされて‥ミニククて、ケガラワシイ様子・醜猥　作家の露悪趣味のような感性を恨みたくなるが、これが隠された真実なのだとも感じます。

「不吉な未来予想を［ハラう］のは‥ ハラウはオハライの祓う］私たち読者の仕事だとの評者の言葉です。２月に逝去された津島佑子さんのご冥福を祈ります。

〈つづく〉

私の住む町・住吉

製作部　録音製作係　内藤（ないとう）　流津（るつ）

私は2歳の時から22年間、「大阪市 住吉区」という町に住んでいます。大阪市24区の中でもかなり古い歴史を持つ町で、木造住宅も多く残っています。

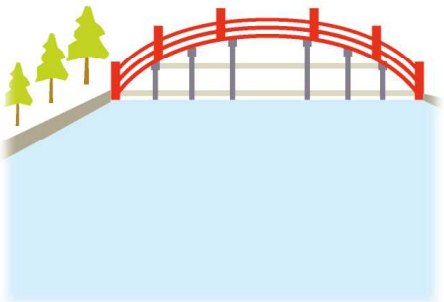
そんな都会なのにレトロな町、住吉区で有名なものを2つご紹介したいと思います。

まずは住吉区が誇る神社、「住吉大社」から。「日本書紀」や「古事記」にも登場する格式ある神社で、近年では世界的にも注目されています。

実はこの神社は、童話にもなっている「一寸法師伝説」発祥の地であると言われています。

おじいさんとおばあさんが住吉神社にお参りし、授かった子どもが一寸法師なのだそう。その逸話からか、住吉大社は安産祈願でも有名です。

境内でも多くの見どころがありますが、ぜひ皆さんに行って頂きたいのが「太鼓橋」正式名称を住吉反橋（すみよしそりはし）というこの橋は、全長約20メートルの木橋で半円上に反った形をしています。また、欄干が朱色でとても美しく、



神秘的な雰囲気に包まれます。ライトアップされる夜はより幻想的な空間に…

しかしこの橋は傾斜がかなりきつく、小さな子供や着物を着ている参拝客にとっては苦戦するポイントとなっています。

続いては、路面電車をご紹介。阪堺電車が運行するこの電車は、「チンチン電車」と呼ばれ、地元住民から長く愛されています。天王寺と恵美須町（えびすちょう）を出発し、住吉区を通り抜け、堺市に向かって走ります。先にご紹介した住吉大社もこの路線上にあります。

殆どが1両編成のラッピング車両。見るたびに柄が違うので、何本見ても飽きません。レトロな街並みを派手な電車が駆け抜ける風景は、撮り鉄さんに大人気です。

ちなみに私のイチオシはパンダ柄です！
また、車両を貸し切って行われる宴会やジャズコンサート等の変わったイベントも行われています。
ゆったりとした時間が味わえる車内イベントには多くの人が集まります。

皆さんもぜひ一度「チンチン電車」に乗って、住吉区へお越しください！

木村（きむら） 謹治（きんじ）

対面リーディングの実際 １７

― 言葉を考える２　アクセント ―

『NHK 日本語発音アクセント新辞典』が18年ぶりの大改訂がなされました。新しいアクセント記号「 ＼ 」「 ￣ 」を採用し、見出しの立て方も“国語辞典方式”になって、より使いやすくなったそうです。

本編の収録語数は7万5000。「新しい語」や「長い複合語」「地名」も充実させたほか、付録では、〈5本〉〈15日〉など「ものの数え方」を一覧表にしたページを大幅に増やし、ＮＨＫアナウンサーへの調査をはじめ、膨大かつ詳細なデータをもとに「放送で用いるのにふさわしいことばの発音・アクセント」を掲載しています。

最新の研究成果に基づく「解説」や実用的な「付録」など、放送現場で使う人だけでなく、日本語の発音・アクセントを学ぶ人にとって役立つ情報に満ちあふれた、“これぞ現代のアクセント辞典”といえる『新辞典』ですと、謳い文句を並べています。

そして、多くのボランティアがこの辞典を利用されると思います。

では、何のために利用するのでしょうか？

音読ボランティアをしている松本久美子さん（当館のボランティアではありません）は、日本語は同音異義語が多いため、文字が確認できない人に理解してもらうには正確なアクセントが欠かせないといいます。「誤って伝わるのを避けるために、辞典的に保証されているもの（アクセント）を使わないといけない。」と考えておられます。

基準を大切にしている松本さんが最近気になっているのが、アクセントの刷り込み現象です。とくにテレビが、違うアクセントを繰り返すことで基準がズレていく「刷り込み現象」が特に気になるそうです。気がつくと放送局に電話されるそうです。

例として「万里の『ちょうじょう』」を示しておられます。

正しくは『ちょうじょう（長城）』であって、『ちょうじょう（頂上）』ではないんです。何回も何回もニュースが流れた結果、間違えて覚えてしまいます。聞いた人が言い始めると、これは流れになる。

やっぱりこのままにしてほしくないと思い、全部の（テレビ）局に電話をかけられたそうです。

ちなみに、アクセントは「Yahoo!知恵袋」では次のようになります。

長城（ちょ う じょ う） は 低高高高
頂上（ちょ う じょ う） は 低高高低

さて、正確なアクセントで読まなければ、間違って伝わることがあるとよく言われます。この定理は果たして正しいのでしょうか？

ネット上で検索できる『日本語教育用アクセント辞典』（http://accent.u-biq.org/）があります。この辞典の特徴はU-biqの日本語教師によって作られたリストを土台に、皆様からの情報を加えて出来上がったアクセント辞典だそうです。市販のアクセント辞典よりも時代の変化に対応しやすいのが強みで、情報の訂正や追加にも随時対応し、ゆれのあるアクセントには投票機能を付けてあるそうです。この辞書で「はし」を調べてみました。

はし（箸）
はし（橋）

残念ながら「端」は掲載されていませんでした。

「箸と橋」のアクセントは、関西と関東は逆転しています。関西人と関東人が会話をすれば、いつも間違って伝わるのでしょうか。そんなことはありません。

アクセントが違っていても、違和感を感じるだけで、前後の文脈で意味を取り違えることはないでしょう。単語を単体で使うことはまずありません。

『外国人にとって、はしで豆をつまむのは難しい』『大雨ではしが流された』『この紐のはしを持って下さい』

上記の「はし」を漢字に変換して下さい。簡単でしょう！

2015年「クローズアップ現代」で『正しいアクセント誰が決める？』というテーマで放送がありました。

大変興味ある内容なので、長文になりますが参考にしながら一緒に考えて行きましょう。

この中で取り上げられた一つが若者ことばです。出演者の欽ちゃん（萩本欽一）が若い学生たちと接していて驚かされたのが、聞き慣れない言葉のアクセントです。

欽ちゃんが学生に尋ねます。「これなんと読む？」

「クラブ」。別の人に尋ねても「クラブ」。アクセントが違うね。「**ク**ラブ」でしょ！

ではこれは？「モデル」

「甘い」は？「あ**まい**」「あ**ま**いー」

「スニーカー」は？「ス**ニーカー**」

「画面」は？「が**めん**」いや「がめん」若者ことばも画一的ではないようで、驚くほど多様化しています。

ＮＨＫにも、連日アクセントに対する違和感の声が寄せられています。

伝統的なアクセントを守るべきか、多様化するアクセントをどこまで受け入れるべきか。

「どんどん若い人は（アクセントが）平板になってくるんだけど、なるべくそこは食い止めるべきところは食い止めといたほうがいいだろう。」とか…。

実際に“正しい”アクセントは誰が決めるのでしょうか。

本来、日本語は語彙やアクセントなど地域ごとの方言の違いが非常に大きい言語です。

そのため、出身地が違う者どうしが意思の疎通を図る際の壁になっていました。

前号にも書きましたが、明治以降、東京・山の手の言葉を基準に標準語教育が急速に進みます。そこには国家の統一と同胞意識を作り出すというねらいがありました。背景にあったのは国力の強化です。

特に軍隊では、正確で迅速な情報伝達が必須で、標準語による徹底した統制が図られました。

そして戦後。共通語という呼び名のもとに、全国どこでも通じる言葉がメディアを通じて広まりました。

しかし今、言葉の多様性が進む中、共通語の基準が揺らいでいます。

声優の田中一永（かずひさ）さんは2014年から、首都圏の鉄道会社の駅で流れるアナウンスの声を担当しています。所が、今回指定されたアナウンスの中で、出身地である深谷駅のアクセントに違和感を抱きました。

「僕の普通の感覚で言うと、『ふ**かや**』なんですね」。収録の時点で言ったのは『**ふ**かや』だったのです。今回吹き込んだアナウンスは、地元の人が慣れ親しんだアクセントとは異なるというのです。

ＮＨＫ放送文化研究所の塩田雄大（しおだたけひろ）さんは「今までは共通語とか標準語というと、これだけが正しい、それ以外は間違っている、わりとそういう態度が多かったが、そうではなくて、共通語というのは幅があるものである、つまり枠である。公共的な公共圏の中での言葉を、この範囲で使おうということを、もっと多くの人間で話し合っていくことが必要。」と考えておられます。

また、おもしろいのは、どんな文章でもすぐに音声化できるソフトを開発しているメーカーです。このメーカーでは、これまではアクセント辞典をも

とに４０万語近い単語を音声ソフトに記憶させてきました。

しかし、新たに生まれる言葉や多様な読み方をされている言葉は、独自にアクセントを決めることにしました。ネット上で、最もふさわしい読み方について投票してもらい、多数決で決めているのです。

東芝研究開発センターの籠嶋岳彦（かごしまたけひこ）さんは「アクセント辞典のような確からしさはないかもしれないけれど、ある程度、一般の人がみんなこれが自然だと思っているのであれば、それは採用してもいいんじゃないか。」と考えられています。

若者ことばの特徴として平板化していると言われます。なぜ平板化しているのでしょうか？

もともと、日本語のアクセントというのは、「平板型」が非常に多いらしいです。アクセント辞典に登録されている言葉の４０％か５０％は実は平板型のアクセントで、非常に日本語らしいアクセントなんですね。

その一方で、外来語が日本語に入ってくるときには、最初はあまり平板型では入って来ません。つまり、外来語らしく、「頭高型」とか、「中高型」とか呼ばれる、平板型ではない形で入ってきます。外来語らしくふるまっているわけですね。

それが平板化すると、あたかも昔から存在するような印象を受けてしまいます。つまりその外来語の平板化に対して、違和感を覚える人っていうのは、外来語は外来語らしくという気持ちの表れということもあるわけですね。

言語学者の阿部貴人（あべたかひと）さんたちは、山形県鶴岡市民７００人を対象に、ふだん使っている言葉のアクセントや発音について聞き取り調査を続けています。

1950年から続けてきた調査の結果では、戦後は３割近くにすぎなかった共通語の普及率が、年を追うごとに上昇。今やあらゆる年代の鶴岡市民が共通語も使っていることが分かりました。

しかし、共通語の基準が浸透した今、阿部さんはそれとは逆行する動きを発見しました。若者たちの中で、失われかけていた方言やアクセントの新しい使い方が生まれていたのです。

『先生さ言う』。『誰々さ言う』

「『じゃあ俺は大体５時半くらいさ、そこさ行く』

若者たちの会話で多く聞かれる「さ」という言葉。

1984年に発表された、吉幾三さんの「俺（お）ら東京さ行ぐだ」。曲のタイトルにも付けられている「さ」という助詞は、本来、東北弁で方向や場所を示す名詞のあとに使われていました。

ところが阿部さんたちの調査では、方向以外のさまざまな言葉に応用して使われていることが分かりました。実はこうした新たな方言は、ほかにも次々と生み出されています。

共通語が浸透した今、それとは逆に若者たちの中で失われかけていた方言やアクセントの新しい使い方が生まれています。

「面白いなと思ったときに『うげる』って。」

「『マジうげるわ』とか、『それわがんね』。」

中でも阿部さんが注目したのが、地元以外の場所に行ったときこそ、独自の方言やアクセントを使うという若者たちです。

「他の県に行くと『何その方言？』と言われて、逆に使いたいみたいなのがあって。『うげる』って言っちゃう。」

若者たちがあえて地元の方言を使うのは、自分たちの文化や価値観を強く主張しようという表れではないかと阿部さんは見ています。

若者は、やはり大人とは違うものを使いたいという意識が強いわけです。それで生まれるのが『若者ことば』ということです。

自分たちらしさを示すために、アイデンティティーを示すために、共通語の影響を受けながらも、これまでの方言を活用して新しいものを生み出し、方言を再生産している。

若者は言葉を変化させていきます。それは健全な流れだと思います。昔、例えば戦前は

こういう事ができなかった。なぜかというと、昔はとにかく日本中で言葉が通じなかった時代があったからです。

そういった中で標準語、当時、標準語と呼ばれていたものを全員が習得するというような形で、半ば強制的に教育がなされた時期があったわけです。

しかし今は多くの人が、それなりのしかるべき場所に行けば共通語的なものを話す、そして地元で友達と話すときには方言的な話をするっていう使い分けをすることが、多くの人ができるようになってきている。

そうなってくると、別に努力して共通語を習得する必要もなくなっているわけですから、そういったときに、自分のアイデンティティーというのか、自分がどういう立ち位置でこの会話をするのか、あなたとはどういう接し方をするのか、どういうキャラで話をするのかということを示すために、積極的に方言を資源として使っていると言えます。

それでは、一体誰が正しいアクセントを決めていくのでしょうか？

塩田さんは、『自分で決めるんだってことになると思うんですよね。』との事です。

『ですから私たちが作っているこのアクセント辞典というのは、これを守れ、ここに載っていないものは、すべてバツだということではなくて、これをヒントに、これをきっかけにして、自分がどういう言葉を使うのか、ある場面ではどういう言葉を使うのかということを考えるヒントにしていただけたらと思ってます。』とも言われています。

ＤＶＤで映画を見ることはありますか？

字幕を読むのが面倒な場合は日本語に吹き替えを選べば、姿形は外国人であっても日本語を喋ってくれます。

原音が良ければ原音で、会話の勉強をしたければ、英語やスペイン語、イタリア語など他の言語を選ぶことが出来ます。

残念ながらデイジーでは大阪弁バージョン、東北弁バージョンなど自由に選べるシステムはありません。どうしても一つの基準で製作されます。

実は、テレビを見ていて違和感を感じることがあります。大阪弁での会話です。「こんなアクセントではない」「こんな大阪弁はない」と感じることが多々あります。

最近はよく考慮されていて、ひどい使い方は少なくなりましたが、それでも子どもの頃から使っている人にとっては少しの違いが気になるのではないでしょうか。

他の地方にお住まいの方も、やはり地元のアクセントと違った発音をされた時は違和感を感じると思います。

これは、単に方言にとどまらず、若者には若者のアクセントがあります。若者ことばを変なアクセントで喋れば若者たちは気味悪がるでしょう。

そういう意味でアクセントは本当に微妙な問題と言えます。

正しいアクセントとはそれぞれの時代、地方、年代、性別などに合わせて発音するのが正しいのではないかと思えてきました。

しかし、これでは読み手の負担が大きすぎます。その為に時間を割けば、利用者に提供出来るまでの期間が延びてしまいます。

ですが、例えば関西人が関西弁の出てくる図書を関西弁で読むのは何の負担もなく自然に読むことが出来ます。

標準語まがいの変なアクセントで聞くより耳に心地よいです。関西以外の地域に住んでおられる方でも理解できます。もし、通じないのであれば、それはアクセントの問題ではなく、言葉自体が分からないのです。

「日本語は同音異義語が多いため、文字が確認できない人に理解してもらうには正確なアクセントが欠かせない」という言葉がありました。しかし音声で伝える場合は、アクセントだけでは解決できない場面が多々あります。

その時は、やはり読み手の「注」が必要でしょう。そうすることにより、より正確に伝わります。

これらは筆者個人の見解です。皆さまはいかがお考えでしょうか。

寄り道・回り道

レポーター：木村（きむら） 謹治（きんじ）

蕎麦（そば）　若木（わかぎ）

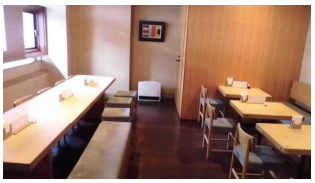
【所在地】　大阪市西区江戸堀1-8-24
【電話番号】　06-6441-4149
【行き方】　大阪市営地下鉄四つ橋線肥後橋駅 徒歩５分（240m）
【営業時間】　11:00～14:00　18:00～21:00　土曜日は昼のみ
【定休日】　日曜日・祝日
【URL】　http://wakagi.webcrow.jp/

肥後橋駅から南へ、肥後橋センタービルの手前の信号「江戸堀１」を左（東）に曲り少し入ったところにある、創業93年の老舗手打ち蕎麦処です。

茶系色の庇（ひさし）のところに「江戸堀　若木」と店名だけが書かれているだけの目立たない店です。

一応、入口には小さな暖簾も出てますが、そこにも小さな文字で店名しか書いていないので、パッと見ただけでは何のお店か分からないです。

店内は、なかなか落ち着いた雰囲気で、客席は一人客用のカウンター席代わりの12人が座れる大きなテーブルが1つ、2人掛けのテーブル席が4つという構成。



外から差し込む外光で明るく清潔感あるシンプルな店構えで、ご夫婦２人で切り盛りされています。

蕎麦と言えば冷たいざる蕎麦ですが、この日食べたのは温かい「梅とじそば（850円）」です。

250円をプラスすると、ひるげ（日替わりのご飯とだし巻き）が付きます。

ふわふわの玉子が出汁の上に均一に浮かんで出てきました。そのふわふわの優しい味わいの卵の中心に梅干しのようなものが。

これが単純な梅干しではありません。種を抜いた梅肉を鰹節と一緒に叩いて丸めたものの様ですが、酸味の角がとれ旨味を増しています。少し削ってふわふわ玉子にのせ、蕎麦と頂くというわけです。この梅を溶きながら食べると、優しい味わいとさっぱりとした味わいとがマッチング。

優しい酸味と淡い玉子の甘さ、出汁の塩加減が良い塩梅です。木の芽とネギの青さがまた見た目にも味のアクセントにも気持ち良いですね。

蕎麦は北海道産の腰の強いそば粉を使った二八蕎麦。やや細打ちでみずみずしく上品な仕上がりです。

この蕎麦に合わせるのは…北海道産真昆布、メジカ、サバからとった出汁です。

夜はつまみと惣菜と共に日本酒と焼酎を楽しむことが出来ます。

人と人生

エム ナマエ　全盲のイラストレーター

サービス部　図書情報係　福田（ふくた）　直樹（なおき）

全盲のイラストレーター、エム ナマエ。1948年東京生まれ。本名は生江雅則（なまえ　まさのり）。

・失明するまでの活動

高校時代は美術部に所属し、油絵制作に専念していた。その当時、漫画家やなせたかし氏の著書により、イラストレーションは絵で表現するポエムであることに気づかされ、将来イラストレーターとなることを志す。また、アルバイト先の出版社で子どもの絵本に触れ、子どもが最初に出会う本としての絵本の存在価値の素晴らしさに目覚めた。

1968年に最初の絵本である『雪の坊や』を自費出版し、翌年には最初の個展「空」を開く。1970年、慶應義塾大学法学部在学中にイラストレーターとしてデビュー。すぐに多忙となり、大学は中退することとなった。児童図書や絵本のイラストレーションを数多く担当し、失明までに約60冊の児童図書を手がけている。

・失明からの再起

1983年、視力と体調の低下のため病院を受診し、糖尿病と診断され、近い将来の失明を宣告される。入院・治療の結果、一度はイラストの仕事に復帰できたが、翌年に再入院となり、視力が著しく低下していった。半年間の入院生活で人生最大の苦難と絶望を味わった。

1984年のクリスマスにクリスチャンである担当の眼科医から「あなたは神に選ばれたのです」との言葉を受ける。退院直後の1985年1月5日の夜明け、眠れずに苦悩していた彼に、朝日と共に突然神からの啓示が下る。そこで宇宙の存在すべてが神より無限の愛を注がれていることを知り、愛の存在がくれる運命なら感謝して受け入れようと決心する。それにより、世界がまるで新しく見えてきたという。

失明後も表現者として生きる道を選んだ彼はイラストレーターから文筆業への転身を決意し、その準備を開始する。白い紙にボールペンで自分では見えない文字を書き、長編ＳＦ小説を完成させる。これで未来への手応えを獲得した。

1986年2月、完全に失明し、同時に人工透析を開始。しばらくは失意の底にあったが、すぐに失明前の決意を取り戻し、作家デビューにチャレンジする。1988年には長編ＳＦ童話が出版され、この作品で児童文芸新人賞を受賞した。これ以降、童話作家としての本格的執筆活動に入る。

1990年、現在の妻と結婚。その記念に失明後初めて描いた絵を版画にして友人らにプレゼントする。その作品がメディアに

取り上げられ、話題となる。これをきっかけに作品とエム ナマエの活動が一般に知られるようになったが、もともとこれらの絵画作品は結婚を決意してくれた妻に楽しんでもらうためだけに描かれたものであった。

同年に展覧会の要請を受け、妻だけを楽しませる作品ではなく、普遍的価値のある作品制作を志す。全盲でも鑑賞可能な作品が制作できることを実現して、人間の可能性を形で示したい、との思いがあった。

制作にあたって役に立ったのがそれまでの絵に対する記憶であり、また自らの内部にあるカラフルなイマジネーションであった。当初は周囲の友人や当時のアシスタントがサポートしていたが、やがて妻と二人だけで制作するようになる。しかし、妻はサポーターであって表現者ではない。作品はあくまでも作者個人の純粋な創作である。

このような経過で全盲のイラストレーターとして復活し、1990年秋には「障害者アートバンク大賞」を受賞。以後、全国で展覧会を開くようになる。

翌年には最初の画集を出版し、その後も次々に画集や絵本を発表する。1992年には第一線で活躍するイラストレーターに与えられる「サンリオ美術賞」を受賞。障害者アーティストとしてではなく、普通のイラストレーターとして認められる。1995年には「日本地方新聞協会ブロンズ賞グランプリ」を受賞。これはその年最高の出版物に与えられる賞で、創作意欲はますます盛んとなる。以後も童話、エッセイ、ポエム、イラストレーションなど、多方面で活躍を続けている。

• どのようにして絵を描くのか

試行錯誤の末、ボールペンでの描画に行き着く。力強く書けば痕跡の残るボールペンを使うことである程度正確な描線を引くことができた。ただし、これは誰にでもできることではなく、彼が経験を積んだイラストレーターだからこそ可能な事である。

次に彩色であるが、かつて得意としていた水彩やカラーインクのぼかし技法で色と画面を構成したいとの思いからパステルによるぼかしを思いついた。パステルなら水も筆も必要とせず、指先から伝わる感覚だけで彩色が可能だった。下絵を制作し、自分の中の色彩感覚で選んだパステルを持たせてもらい、彩色したい場所へ導いてもらい、彩色する。その後、布や紙によるよるぼかしを行う。これを繰り返すことで絵が完成していく。

• 主な著作

「UFOりんごと宇宙ネコ」
処女長編童話。平成元年第18回児童文芸新人賞受賞。

「夢の翼をはばたいて」
失明後、最初の詩画集。現在は絶版状態。

「夢の力」
失明前から2002年まで、エム ナマエのすべてが見えるカタログ的画集。

注：以上の内容はエム ナマエ公式サイト内の「エム ナマエの詳しい履歴書」「エム ナマエの秘密」の文章を引用、再構成したものです。

エム ナマエ公式サイトのURL
http://www.emunamae.com/

2016年度後期　音訳ボランティア養成講習会（１）開催のおしらせ

音訳ボランティアを志す方を対象に、発声、発音、アクセントなどの基礎練習を中心とした講習会を開講します。 音訳ボランティア活動を行う上で必要な心構えや基礎知識を含め、全１５回を受講していただきます。
修了後は、当センター主催の「音訳ボランティア養成講習会(２)」（マイクテストがあります）に進んでいただくことができます。

日程：2016年９月６日~12月13日までの火曜日　午後１時～２時50分
会場：日本ライトハウス情報文化センター４階会議室
講師：安田知博氏、当センター職員
定員：15人（先着順）
費用：7,000円（初回に納めていただきます）
申込受付締め切り：2016年８月31日（水）必着

すでに対面リーディングで活動されている方も受講できます。
発声、発音、アクセント等の基礎を習得している方が対象の養成講習会（２）も募集中です。
お申し込み、お問い合わせは録音製作係（06-6441-1017）まで。

リオデジャネイロ オリンピック・パラリンピック企画

難読（？）選手名の読み方

いよいよリオデジャネイロ オリンピック・パラリンピックが開幕します。そこで今回は活躍が期待される日本代表選手の中から、少し読みにくそうな選手の名前と読みをご紹介します。

種目	選手名・読み	種目	選手名・読み
陸上	桐生祥秀（きりゅう　よしひで） 山本聖途（やまもと　せいと） 設楽悠太（したら　ゆうた） 荒井広宙（あらい　ひろおき） 高瀬　慧（たかせ　けい）	バドミントン	奥原希望（おくはら　のぞみ） 栗原文音（くりはら　あやね）
		重量挙げ	松本潮霞（まつもと　なみか）
水泳	小関也朱篤（こせき　やすひろ） 江原騎士（えはら　ないと） 瀬戸大也（せと　だいや） 渡部香生子 （わたなべ かなこ） 池江璃花子（いけえ　りかこ）	ゴルフ	野村敏京（のむら　はるきょう）
		車いすラグビー	池透暢（いけ　ゆきのぶ）
柔道	海老沼匡（えびぬま　まさし） ベイカー茉秋（ましゅう）	陸上（パラ）	上与那原寛和 （うえよなばる　ひろかず）

好成績で新聞紙面を賑わしてくれるのを期待したいですね。

□　８月１１日（火）～１８日（木）は対面サービスはお休みです。

当館の夏期休暇に伴い、８月11日（火）から18日（木）まで対面リーディングサービスもお休みとなります。

上記以外は通常通りとなりますが、例年８月はいろいろな行事や旅行、ご家族の帰省などでボランティア活動ができないというご連絡を多く頂いています。

この時期、いつも以上に職員からの依頼の連絡が入るかと思いますが、もしご都合が合う日がありましたら月に２回、３回と活動して頂けると助かります。

ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

□　対面リーディング基礎講習会の募集見送りについて

9月に今年度1回目の対面リーディング基礎講習会を予定しておりますが、前回の講習で定員を大幅に超えるお申し込みがあり、現在受講をお待ちいただいている状態です。そのため、今回の講習では新たな募集は行いません。なにとぞご了承ください。

年度内に2回目以降の講習を予定しております。日程などは決まり次第、当通信や情報文化センターのホームページでお知らせいたします。

□　8月・9月のオープンデーについて

毎月1回、第2土曜日に開催している「オープンデー」は、どなたでもご参加いただける館内見学会です。時間は13時30分から約２時間、普段はご覧頂けない製作部門などへもご案内します。費用は無料です。参加ご希望の方は対面担当までご予約をお願いします。

当館でのボランティア活動を行う上で、館内の様子や活動内容を知っていただく事はとても大切です。１度は必ず館内見学へのご参加をお願いします。

８月は夏期休館があるため第３土曜の20日、9月は通常通り第2土曜日の10日に開催します。

話題のゲーム「ポケモンＧＯ」が配信され、情文の周りでもスマホ片手に歩いている人を見かけます。利用者さんとの衝突など、事故が起こらないよう充分注意してほしいものです。（F）

日本ライトハウス 情報文化センター
550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2
06-6136-7704（対面専用）
06-6441-0039（サービス部）